

まちづくり交付金 事後評価シート
本丸地区

平成22年3月

栃木県壬生町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	栃木県	市町村名	壬生町	地区名	本丸地区			面積	118ha
交付期間	平成17年～平成21年	事後評価実施時期	平成21年	交付対象事業費	525百万円	国費率	0.409		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(町道3-178号)、公園(街区公園整備事業)、土地区画整理事業(御里地区区画整理事業)						
		提案事業	まちづくり活動推進事業(本丸地区まちづくり推進事業)						
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(町道3-390号)	用地取得困難により削除。				影響軽微	
提案事業		地域創造支援事業(御里土地区画整理区域内公共下水道事業単独分) まちづくり活動推進事業(本丸地区にぎわい復活事業)	下水道事業単独分:御里土地区画整理区域内公共下水道事業において、事業計画の見直しにより別事業としたことにより削除。 本丸地区にぎわい復活事業:他事業による既存事業が導入されており、地元との合意形成がはかれず削除。				影響軽微		
基幹事業		道路(町道3-550号) 地域生活基盤施設(コミュニティ広場、水防倉庫、防災研修センター)	町道3-550号:町庁舎への来訪者の利便性向上を図るために追加。 コミュニティ広場:人々の交流を促進し、中心市街地活性化に寄与する拠点空間を創出するために追加。 水防倉庫・防災研修センター:防災体制を強化するために追加。				道路:目標において「地区のメインストリートである蘭学通りと町庁舎を結ぶ道路を整備し、来訪者へのアクセスと利便性向上を図る」の文言を追加。 コミュニティ広場:目標において「人々が集い、城下町としての歴史や文化を感じられる広場を設けることで、町の新たなシンボルロードに位置づけ、生き生きと活気の生まれる中心市街地を形成する」の文言を追加。 水防倉庫・防災研修センター:目標において「防災についての研修施設や消防団施設などの整備充実を図り、人々が安全・安心で快適に生活できる元気なまちを創出するため、消防防災拠点を整備する」の文言を追加。また、指標「災害発生時の初動時間」を追加。		
交付期間の変更	当初	平成17年～平成21年	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響						
	変更								

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	モニタリング	評価値					
指標1	土地区画整理区域内人口	人	150	H15	500	H21	128	128	△	あり	優良宅地の造成が交付期間最終年度末になるため、交付期間中は住民の誘致までには至らない。宅地造成後は積極的な誘致を行い当初目標を達成させる。	平成22年4月頃
指標2	壬生駅乗降客数	人/日	2,900	H14	3,000	H21	2,230	2,100	△	あり	少子高齢化等により壬生高校の学生数が減少し、壬生駅を利用する学生数が減少している。	平成22年4月頃
指標3	壬生城址公園内施設利用者数	人/年	88,000	H15	97,000	H21	96,000	97,500	○	あり	地区の歴史的な風情を活かしたまちづくりや、施設内イベントの充実が町内外へのアピールになり、集客の向上が図れている。	平成22年4月頃
指標4	災害発生時の初動時間	分	40	H18	10	H21		10	○	あり	水防倉庫・防災研修センターの整備により、初動時間の短縮が可能となった。	確定値

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	モニタリング	評価値					
その他の数値指標1	土地区画整理区域内消防活動困難家屋数	戸	31	H16				0			土地区画整理事業により、事業区域内の消防車両進入困難道路が解消された。	確定値
その他の数値指標2	八坂祭観光入込客数	人	12,000	H16			15,000	15,500			地区内の歴史的な風情を活かしたまちづくりの推進により、地区のアピールが年々図られている。また、コミュニティ広場の整備により、八坂祭等町中イベントでの溜まり場が創出され、人々の交流が促進される。	平成22年8月頃

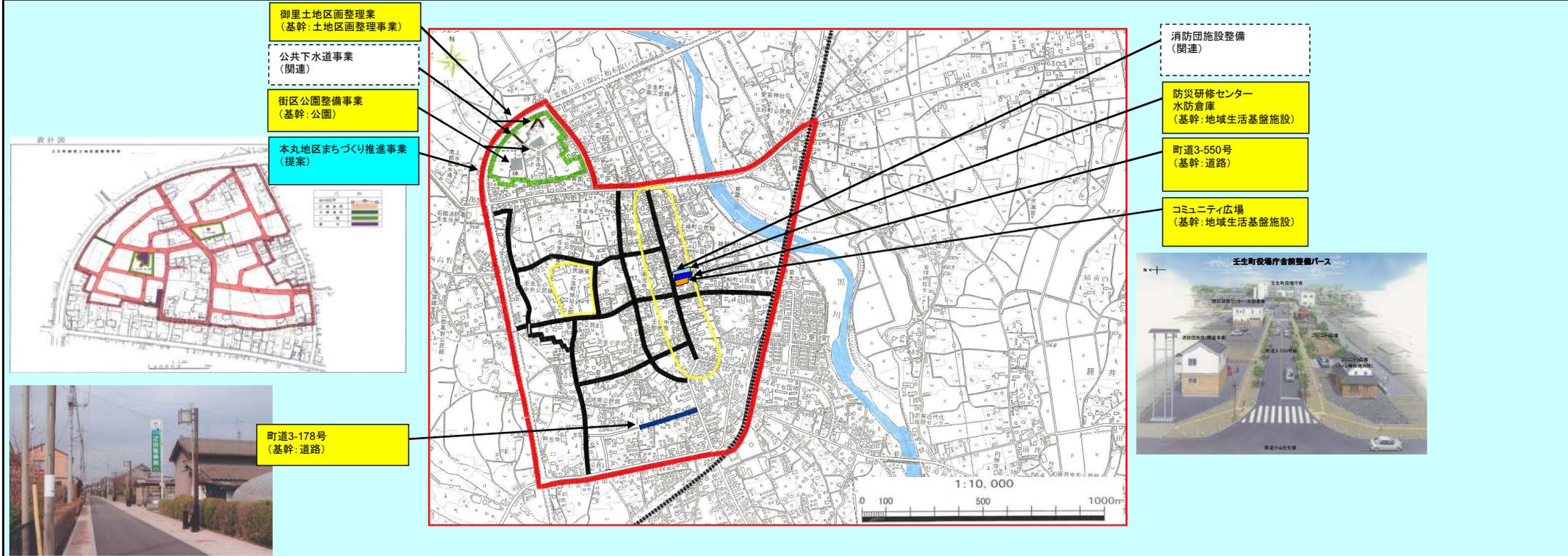
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 城下町という地区の歴史的な風情を活かしたまちづくりの推進により、まちなかの景観向上が図られた。 区画整理による道路整備が実施されたことにより、救急車等による要救護者の搬送が容易になり、地区内の救命救急向上が図られた。 街区公園を2箇所整備できたことにより、地区内住民の憩いと集いの場を提供することができた。
--------------	---

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等	
	モニタリング	効果発現要因に関わるデータ等の確認	都市再生整備計画に記載し、実施できた			
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	実施結果により、実施事業と設定指標との整合性を再確認する。	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			
住民参加プロセス	土地区画整理事業による市街地整備の方向性で地域の合意形成、組織づくり、まちづくり勉強会等の積極的な啓蒙活動	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	組合を通して住民の意見を聞き、事業運営に反映させていく。		
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				
持続的なまちづくり体制の構築	土地区画整理事業による市街地整備の方向性で地域の合意形成、組織づくり、まちづくり勉強会等の積極的な啓蒙活動	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	区画整理事業完了に向けた継続的な支援をしていく。		
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				

様式2-2 地区の概要

本丸地区(栃木県壬生町) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
<ul style="list-style-type: none"> ・本地区は、壬生町の中心となる市街地であるが、道路整備水準が低く、徐々に宅地化が進んでいる。またスプロール化が進んでいることから、土地区画整理事業により、公共施設の整備改善を図ると共に、良好な住環境を持った住宅地としての市街地を整備する。 ・生活道路を整備することにより、排水環境の向上、人々にやすらぎと、潤いを与える空間を形成するとともに、くらしのみちづくり事業、まちづくり総合支援事業により整備した道路を生かし、まちなか散策路を形成し、地区内公共施設と地元商店街と連携を図り、まちなかの賑わいを復活させる。 ・地区のメインストリートである蘭学通りと町庁舎を結ぶ道路を整備し、来訪者へのアクセスと利便性向上を図る。また、人々が集い、城下町としての歴史や文化を感じられる広場を設けることで、町の新たなシンボルロードに位置付け、生き生きと活気の生まれる中心市街地を形成する。 ・防災についての研修施設や消防団施設などの整備充実を図り、人々が安全・安心で快適に生活できる元気なまちを創造するため、消防防災拠点を整備する。 	土地区画整理区域内人口	単位：人 150 H15	500 H21	128 H21
	壬生駅乗降客数	単位：人/日 2,900 H14	3,000 H21	2,100 H21
	壬生城址公園内施設利用者数 (図書館、公民館、歴史民俗資料館)	単位：人/年 88,000 H15	97,000 H21	97,500 H21
	災害発生時の初動時間	単位：分 40 H18	10 H21	10 H21



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理の実施により、良好な市街地が形成された。 ・町道3-178号の整備により、中心部の回遊性が向上し、また側溝整備により道路排水が可能となった。 ・コミュニティ広場の整備により、八坂祭等町中イベントの中核的な場所として機能し、人々の交流が図られ、中心市街地の活性化につながった。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の効果を持続させるために、既存地元組織を活用し、新たな住民も巻き込んで、中心市街地活性化につながる各種ソフト事業を展開する。町は後方支援に徹し、住民主体の永続的な活動を目指す。 ・土地区画整理における保留地の早期分譲を図り、既存組織に新規住民を巻き込んで、さらなる発展を図る。